

第112回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年4月25日（木） 14：00－15：30

2. 場所：中央合同庁舎4号館共用第3特別会議室

3. 出席者

(1) 委員

宇宙政策委員会

後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、白坂委員、鈴木委員

(2) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

風木事務局長、渡邊審議官、猪俣参事官

(3) オブザーバー

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：山川理事長

(4) 関係省庁等

総務省国際戦略局：豊嶋審議官

総務省国際戦略局宇宙通信政策課：扇課長

文部科学省研究開発局：千原局長

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：嶋崎課長

経済産業省大臣官房：浦田審議官

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：佐藤理事、佐々木部長

4. 議事要旨

(1) 宇宙戦略基金の基本方針案・実施方針案について

宇宙事務局、総務省、文部科学省、経済産業省より資料 1-1-1～1-4-2 に基づき説明を行った。
委員からは以下のような意見があった。

○宇宙戦略基金の執行に当たっては、宇宙技術のマルチユース、デュアルユースも念頭に進めることも重要。

○国費を投入する以上、成果検証、EBPM も関係府省や JAXA でしっかり進めていくべき。また、完了 TRL が低い規模の大きいプロジェクトについては、JAXA からのサポートが特に必要になってくるのではないかと。プロジェクトの成功にはこうした政府や JAXA がマネジメントをどう進めていくべきかが重要である。

○JAXA の体制など、プロジェクトをマネジメントしていくうえで十分な人員体制を確保していくべきである。

○技術開発テーマの全体像について、今回のプロジェクトでは、最終的な出口がビジネスの拡大や、社会課題解決、知の探究等、地球上に向かっているということが重要。各プロジェクトの

運営に当たっては、常に全体像を意識することが重要である。

○プロジェクトの選定に当たっては、他の既存の支援策との相関も意識し、効率的な支援となるようにすべき。

(2) 宇宙分野の成果発信について

内閣府、JAXA より資料 2-1-1~2-2 に基づき説明を行った。

委員からは以下のような意見があった。

○宇宙関係予算の拡大に合わせて、情報発信の在り方もこれまでとは変えていく必要がある。

単に宇宙への注目度を高めることのみを目的とするのではなく、経済・社会・外交など、より広いコンテキストの中で、宇宙が欠かせないものであることを、広く理解いただくことが重要。

○これだけ国費投入も増えている中で、宇宙活動も活発化しており、JAXA も含めて、これまでの宇宙の広報というフェーズから一歩ギアを上げて、情報発信の在り方もしっかり検討していく必要があるのではないか。

(3) 日米首脳会談の結果と、「与圧ローバによる月面探査の実施取決めについて、内閣府、文部科学省より報告を行った。

以上